

次期弘前大学情報基盤システムに望むこと

教育学部 上之園 哲也
uenosono@hirosaki-u.ac.jp

1 はじめに

平成 20 年(2008 年)の学習指導要領改訂以降, 情報教育, ICT を活用した教科指導など, 教育の情報化に関わる内容の充実が図られてきた。また, 教育の情報化のもう一つの要素である校務の情報化についても一定の予算措置の基に進められてきた。しかし, 現在ではその後の継続的な予算措置が十分とは言えず, 附属小学校における ICT 環境の整備は遅れており, その状況はかなり深刻と言える。ましてや一般公立学校のモデルとなりうる水準からは程遠い。本学の情報基盤システムの更新に伴って, 附属学校園への予算的, 技術的支援が求められる。

2 附属小学校の IT 基盤の現状と課題

附属小学校に設置されている児童のための教育用コンピュータ, 教員のための校務用コンピュータのほとんどは平成 22 年(2010 年)に導入されたままで更新されていない。不具合を起こしたものをから随時購入によって入れ替えてきたため, 数種類の機種及び仕様のコンピュータが混在している。また, コンピュータ教室ではネットワークの通信速度が遅いため 40 台あるコンピュータの内, インターネットに同時接続できるのは 10 台程度である。この環境では ICT を活用した授業を展開するのは不可能に近い。さらに, 児童用コンピュータを教師用コンピュータから一元管理するためのシステムが構築されていないことやタブレット端末とデスクトップ端末間でファイル, システムの同期・共有ができないために, 本来期待される教育効果が得られていない。今後もより求められる ICT を活用した教科指導の遂行と共に, 2020 年度から完全実施となるプログラミング教育を遂行するためには, 早急な環境整備が望まれる。

さらに, このような不十分と言わざるを得ない環境は次のような問題も生んでいる。

附属小学校には, 校務用 45 台, 教育実習用 10 台, 教育用 63 台, 計 118 台のコンピュータが設置されている。それら全てのコンピュータにセキュリティのための Fセキュアをインストールしたり, パスワードを変更したり, 認証したりする作業が求められる。しかし, その作業は複雑で躓く職員も多く, 事務職員の協力も得ながら管理担当者が対応している。特に年度初めはこれらの作業が集中するが, 対応する管理担当者は教員である。授業や教材研究, 児童への対応等の本務が優先されるため, 更新作業やメンテナンスは勤務時間内ではなし得ない。そのため大幅な残業や休日出勤を余儀なくされており, その勤務の振替もままならない。このような業務は教員への負担が大きいだけでなく, これにかけられる時間は教員に支払われる教職調整額の範囲を超えていると考えられ, 看過できない。

また, 現在, コンピュータ教室の教育用コンピュータ 40 台全てと, 職員室の校務用コンピュータ 36 台の内 19 台が Windows7 のままである。今後, サポートが終了する 2020 年 1 月 14 日までに全ての OS を更新する必要があり, 管理担当者の負担が増えることが考えられる。また, 幼稚園, 小学校, 中学校, 特別支援の附属 4 校園では 2019 年度より小学校にサーバーを設置し, 校務支援システムを導入する。それに伴って, 本学の情報基盤システムとの連携等の問題が発生することも考えられ, 管理業務はさらに複雑さ, 煩雑さを増すと予想される。総合情報処理センターからの専任職員の配置が望まれる。

3 おわりに

以上のように, 附属小学校の IT 基盤は, 機器及びシステムの老朽化と機種, 仕様の混在のため, 非効率化と機能低下を招いている。その結果, ICT を活用した教科指導による教育効果は得られにくく, 校務においては IT の恩恵を享受するというよりはむしろ, IT の不具合によって効率低下を被るという状況になっている。文京地区の情報基盤システムが更新されるに従い, 附属小学校の IT 基盤との差はさらに広がり, まさにガラパゴス化することが懸念される。附属学校園は教育学部の附属施設ではあるものの, IT 基盤は大学全体の資産であるという視点に立ち, 本学情報基盤システムの一部に組み入れ, 大学全体でバランスの取れた情報基盤システムになることが強く望まれる。